

授業科目 在宅ケア論Ⅰ		科目概要・形式 2単位 30時間 必修	配当年次 1年 前期
科目責任者	川口 徹		
担当者	川口 徹、安田 肇		
1. 科目のねらい・目標			
主として高齢者障害者、および肢体不自由児・者を対象とした在宅ケアの社会的、歴史的背景および取り巻く環境などについて概説し、在宅ケアについての基礎的な理解を深める。さらに、在宅ケアの実際、およびシミュレーションなどから、在宅ケアを展開する方法についての検証を行い、さまざまな角度からの生活支援のあり方を模索し、在宅ケアの実践能力を広げる。 また、特に難病者へのリハビリテーションケアにおける一連の知識を習得し、症状が進行していく者に対する在宅ケアについて、その展開能力を高める。			
2. 授業計画・内容			
(川口 徹)			
1. 在宅ケア概説日本における在宅ケアの現状			
2. 日本における在宅ケアの現状			
3. 日本における在宅ケアの課題			
4. 日本における在宅ケアの展開方法			
5. 在宅ケアの事例検討			
6. 在宅ケアの事例検討			
7. 在宅ケアの事例検討			
8. 在宅ケアの事例検討			
9. リハビリテーションの視点からみた在宅ケア			
(安田 肇)			
10. 神経難病総論（筋萎縮性側索硬化症、脊髄小脳変性症、パーキンソン病を中心に）			
11. 神経難病患者の在宅ケアのための技術的側面 （運動療法、経官栄養法、在宅人工呼吸療法など）			
12. 神経難病患者の在宅ケアにあたっての介護者の介護負担について			
13. 神経難病患者の終末期の倫理的問題			
3. 教科書、参考書			
教科書は指定しない。参考書は授業の中で紹介する。			
4. 成績評価方法			
講義参加状況、提出されたレポート等で総合判断する。			
5. その他			
主体的な授業参加を希望する。 特に事例検討では、各自のレポートで授業を展開する予定である。			

授業科目		科目概要・形式	配当年次
地域社会学特論		2単位 30時間 必修	1年 後期
科目責任者	平川 毅彦		
担当者	平川 毅彦		
1. 科目のねらい・目標			
「地域社会」および「コミュニティ」という考え方の形成プロセス・議論をたどり、これらの社会学的意味を明らかにしたうえで、「福祉」という視点から地域社会をとらえる「福祉コミュニティ」の特徴と課題を事例をもとに検討する。			
2. 授業計画・内容			
1. はじめに			
2. 地域社会とコミュニティ			
3. 戦後町内会を巡る議論と都市コミュニティ論			
4. 社会福祉から見た地域社会①：生活問題発生の場合			
5. 社会福祉から見た地域社会2：生活の主體的側面と地域社会			
6. 「福祉コミュニティ」の考え方			
7. 事例検討①：地域の茶の間・うちの実家（新潟市）			
8. 事例検討②：生活圏拡張運動と「福祉のまちづくり」（仙台市）			
9. 事例検討③：重度身体障害者の生活史と地域社会1（春日井市・名古屋市）			
10. 事例検討④：重度身体障害者の生活史と地域社会2（岡崎市）			
11. 課題作成			
12. 課題報告とまとめ			
3. 教科書、参考書			
教科書			
平川毅彦『「福祉コミュニティ」と地域社会』 世界思想社			
参考書			
必要に応じて授業中に掲示します。			
4. 成績評価方法			
出席・受講態度、作成課題の結果等で総合的に評価します。			
5. その他			
受講前に、「このシラバス」に必ず目を通しておくこと。そのうえで、指定した「教科書」は授業開始時まで各自が必ず購入し、受講時に持参してほしい。講義の大半はテキストに記された内容を中心にすすめ、テキストの読み合わせも行う。テキストが手元に用意されていないことは「受講意思が無い」と見なされる場合もあるので充分注意すること。			

授業科目 社会保障特論		科目概要・形式 2単位 30時間 選択	配当年次 1年 後期
科目責任者	増山 道康		
担当者	増山 道康		
1. 科目のねらい・目標			
① 社会保障が制度として形成された歴史的意義と公共の福祉との関連における現代社会での制度存続理由と内在する設計思想を理解する。			
② 現代社会における社会保障制度の本質を学び、日本における社会保障制度の体系の由来と体系全体に係わる問題を整理し、今後の方向性を議論する。			
③ 社会保障体系のパラダイムを理解し、日本型政治における政策・制度形成過程の本質を知る。			
2. 授業計画・内容			
歴史的・政治経済的事実だけでなく理論・理念・哲学を学ぶことにより、抽象理論の具体化（実証）として現代社会保障を総体として理解を深める。体系的には以下の内容を講義するが、できるだけ学生の授業参加（討論と報告）によって進めていく。			
①歴史的事実（社会保障形成史と国家安全保障との関係：Securityの社会的・政治的意義） アメリカ社会保障形成の原動力 15年戦争と日本型社会保障形成 GHQと日本政府の関係			
②現代の政治経済との関係（現代福祉国家の実相と社会保障の意義） 現代資本主義と格差社会の本質（防貧と救貧） 市場経済を補完する制度・外部効果 国際関係と社会保障			
③社会保障設計思想（パラダイムの構造） 社会科学におけるパラダイム（政策・制度の設計思想と大衆の無意識） 日本社会保障思想の源流（古代中国と現代日本の思想的位置関係） 日本型社会保障のパラダイム（制度設計からみた日本思想：パラダイムの三相構造）			
④現代社会保障の理論（福祉国家論、政治経済学派的社会保障論） 政策科学の対象としての社会保障 社会保障の哲学（センとロールズ。日本哲学者の論考） 福祉国家の理論（類型化を越えて：ペストフの三角形）			
⑤社会保障の限界と今後の展望 経済給付と非経済給付の関係 ソーシャルワーク付社会保障の是非（公的扶助と社会手当） 現代日本社会保障政策と人口論			
3. 教科書、参考書			
教科書	増山道康「社会保障の源流を探る一教典に描かれた貧困観と貧困への対応」大学教育出版2012 ISBN978-4-86429-176-7 その他、適宜資料を配付する。		
参考書	Merrien. FX、石塚秀雄訳「福祉国家」白水社 2001 ISBN4-560-05837-7 今田高俊「社会階層と政治」東京大学出版会1990 ISBN4-13-032097-1 塩野谷祐一他編「福祉の公共哲学」東京大学出版会2004 ISBN4-13-05119-X Kuhn. TS、中山茂訳「科学革命の構造」みすず書房1997 ISBN4-622-01667-2 Rawls. J、川本隆史他訳「正義論」紀伊國屋書店2010 ISBN978-4-314-01074-0 宮川公男「政策科学入門」東洋経済新報社 2003 ISBN4-492-25008-5		
4. 成績評価方法			
受講態度、討論への参加、レポート等を総合的に評価する。			
5. その他			
参考書は、必読です。読んでいることを前提にして講義を進めます。双方向型授業を目指します。積極的に討論をしてください。レポートや口頭報告は期日を厳守してください。			

授業科目 地域栄養学特論		科目概要・形式 2単位 30時間 選択	配当年次 1～2年後期（隔年開講）
科目責任者	吉池 信男		
担当者	吉池 信男、草間かおる		
1. 科目のねらい・目標 地域におけるヘルスプロモーションの中で、栄養・食生活に関わる取組は重要である。その際、単に栄養素等摂取量の不足・過剰といった事を超え、人々の生活や人生そのものを見つめた全人的な、そして生態学的側面からの活動が必要となる。栄養、保健、医療、福祉に関わる専門職がチームとしてとりくむべき課題を発見し、考察することを目的とする。			
2. 授業計画・内容 【吉池信男】 地域における栄養・食生活上の課題の発見と、それらに対処するための包括的な地域栄養マネジメントについて論じる。 1・2回：地域社会における栄養・食生活上の現状と課題を概説する 3・4回：地域社会における栄養・食生活に関わるアセスメント法を論じる 5・6回：地域における栄養・食生活の課題を含む介入プログラムのマネジメント手法を論じる 7回：まとめ 【草間かおる】 地域社会の一例として、開発途上国をとりあげ、“Global Health”という視点から栄養・食生活上の課題解決に向けた総合的取組を論じる。 1・2回：地球レベルでの栄養問題と対策 3・4回：地域を対象とした栄養診断 ～食事調査の方法とデータ活用～ 5回：開発途上国における栄養プログラムの展開と課題 6回：まとめ			
3. 教科書、参考書 随時、推薦する。			
4. 成績評価方法 事前学習、発表態度、レポートなどにより評価する。			
5. その他 学生の研究課題に即して 授業内容を変更する場合がある。 英文資料を多く読む予定である。			

授業科目		科目概要・形式		配当年次	
病態生理学特論		2 単位 30 時間		1 年 前期	
科目責任者	神成一哉				
担 当 者	神成一哉, 尾崎 勇, 渡部一郎, 岩月宏泰, 今 淳				
1. 科目のねらい・目標					
本科目では、医療及び福祉介護の現場で日常遭遇することの多い代表的な疾患あるいは病態の成因や仕組みに関する基礎的事項及び最新の知見を概説する。実務に役立つように知識を整理して理解してもらうことを目標とする。 また、病態生理の理解のためには各種臓器の構造に関する知識も重要である。そこで実際に肉眼および顕微鏡で臓器を観察する組織学演習を合わせて行う。					
2. 授業計画・内容					
回	担当教員	内容			
1	神成	糖尿病 1			
2	神成	糖尿病 2			
3	神成	認知症			
4	神成	神経難病			
5	尾崎	頭痛			
6	尾崎	しびれ			
7	尾崎	痛み			
8	渡部	脳卒中			
9	渡部	関節リウマチ			
10	今	遺伝子と病態 1			
11	今	遺伝子と病態 2			
12	岩月	組織学演習 1			
13	岩月	組織学演習 2			
3. 教科書、参考書					
(参考書)					
山口和克監修：新版 病気の地図帳，講談社					
高橋長雄監修：からだの地図帳，講談社					
4. 成績評価方法					
出席とレポートで評価する					
5. その他					

授業科目		科目概要・形式	配当年次
看護管理学		2単位　30時間　選択	1年次　後期
科目責任者	上泉　和子		
担当者	鄭　佳紅、上泉　和子		
1. 科目のねらい・目標			
看護管理学の基盤となる諸理論をふまえ、看護管理者あるいは専門看護師として変革するための知識を学び、変革の能力を養う。			
2. 授業計画・内容			
下記の内容について、講義、プレゼンテーション、演習、ディスカッションを行う。			
〔上泉和子〕　　6コマ			
Ⅰ. 看護管理学概論（組織論）			
1. 組織論の視点からみた看護関連組織の分析とデザイン			
2. 組織行動論の視点から見た人的資源管理のあり方			
3. ヘルスケア関連組織におけるチームでの取り組みの課題			
Ⅱ. 変革のマネジメント			
1. 変革理論			
2. 変革のための分析と変革計画			
〔リボウィッツよし子〕　　6コマ			
Ⅰ. 質評価と改善に関する			
1. 質改善の概念と歴史的変遷			
2. 構造、プロセス、アウトカム評価の実践			
3. ユニットベースの質改善の組織化と方法			
4. 企業の質管理に学ぶ看護実践への応用			
〔鄭　佳紅〕　　4コマ			
Ⅰ. 安全管理とリスクマネジメント			
1. 安全管理の概念			
2. 病院等における安全管理・リスクマネジメントの実際			
3. 看護管理（者）と安全管理・リスクマネジメント			
3. 教科書・参考書			
特に指定しない。必要に応じてその都度参考書を提示する。			
4. 成績評価方法			
レポート、プレゼンテーション			
5. その他			

授業科目 看護倫理学		科目概要・形式 2単位 30時間 必修	配当年次 1年 前期
科目責任者	中村 由美子		
担 当 者	中村 由美子、 志自岐 康子		
科目のねらい・目標			
〔中村由美子〕 ヘルスケアの場における倫理的問題の事例を通して、問題の意味やより望ましいあり方や対処について、倫理原則・ケアの倫理・倫理綱領・法的側面から学ぶ。			
〔志自岐康子〕 ヘルスケアの現場で看護職が直面する倫理的課題を把握し、倫理的意思決定能力を高めるために、倫理に関する基本的概念や理論を学び、倫理的課題への対応について探求する。			
2. 授業計画・内容			
〔中村由美子〕 1. 事例（1）の提示と分析 2. 同上 3. 事例（2）の提示と分析 4. 同上 5. 事例（3）の提示と分析 6. 同上			
〔志自岐康子〕 1. 生命倫理における基本原理 2. 看護倫理の定義と意義 3. 看護ケアにおける倫理的課題とその対応 ―倫理的意思決定モデルを用いて― 事例検討			
3. 教科書、参考書			
〔中村由美子〕 特に指定しない			
〔志自岐康子〕 事前に提示する			
4. 成績評価方法			
〔中村由美子〕 出席と参加度			
〔志自岐康子〕 参加度とレポート			
5. その他			
〔中村由美子〕 事例を3つ作成し、事前に配布しておく。それについて予習し参加する。事例のテーマは特定しない。			

授業科目		科目概要・形式	配当年次
臨床薬理学特論		2単位 30時間 選択	1年 前期
科目責任者	中村 郁子		
担当者	中村 郁子、斉藤 弘子		
1. 科目のねらい・目標			
臨床薬理学はすべての薬物療法の基本となるものです。ここでは医療人として最低限必要な薬理学的基礎知識から、薬物の体内動態や薬効発現までのメカニズムおよび薬効発現での個体差の成因を学んだ後、臨床でよく遭遇する疾患に使用される代表的薬物について、是非身に付けておきたい一般的知識を学習します。また薬物療法に付随する薬害や薬物中毒および医薬品の開発の現状などもあわせて学びます。			
2. 授業計画・内容			
1	授業科目の紹介、人類と薬の歴史		
2	薬効発現の機序と用量反応曲線		
3	薬物の投与と薬物の体内動態、薬理遺伝学		
4	薬物有害反応と薬害事件、薬物乱用と薬物依存		
5	抗生物質と耐性菌への対応		
6	解熱鎮痛薬と副腎皮質ステロイド		
7	呼吸器系に作用する薬物		
8	循環器系・腎臓に作用する薬物		
9	消化器系・肝臓に作用する薬物		
10	糖尿病・高脂血症と薬物		
11	中枢神経系に作用する薬物・睡眠薬と精神安定薬		
12	抗がん薬		
13	小児、妊婦・授乳婦、高齢者と薬物、新規医薬品開発と臨床試験		
3. 教科書、参考書			
教科書：古川裕之他編集 ナーシング・グラフィカ 臨床薬理学（最新版） 出版元 メディカ出版			
参考書：			
日本臨床薬理学会編 臨床薬理学 出版元 医学書院			
大橋京一他編集 疾患からみた臨床薬理学 出版元 じほう			
佐藤哲夫他編集 医薬品トキシコロジー 出版元 南江堂			
岩澤真紀子編集 ケースで学ぶ薬物治療 出版元 南山堂			
4. 成績評価方法			
授業の最後にレポートを提出する平常評価のみを行ない、中間評価と期末評価は行いません。従って授業に集中し、その場で疑問点を解決するように心がけてください。			
5. その他			

授業科目		科目概要・形式	履修年次
国際母子保健学		2 単位 3 0 時間	1 年 後期
科目責任者	大関 信子		
担 当 者	大関 信子		
1. 科目のねらい・目標			
1) 周産期にある母子の援助に関する国際規約（ICM, ICN, WHO）を学び、臨床での周産期ケアシステムやサービスの問題点を明確にして改善方法を考えることができるようにする。			
2) 日本の国際化の現状を理解し、周産期にある外国人母子へのサービスを組織的に提供できる能力を養う。特に、母子保健上の問題、周産期管理（管理者としての緊急事態や業務管理）、地域との連携、施策の参画ができるようにする。			
2. 授業計画・内容			
1) 周産期にある母子の援助に関する国際規約を学ぶ。			
①ICM：助産師の定義			
助産師の国際倫理綱領			
コアコンペテンシーズ（特に、異常の診断と対応策）			
②ICN：看護の定義、看護師の定義			
看護師の倫理綱領			
看護専門職と母性に関するヘルスケアサービス、ヘルスケアシステムに関する所信声明			
③WHO：「WHO の 59 カ条お産のケア実践ガイド」			
「母乳推進の 10 カ条」			
④看護業務基準の国際比較と分析			
2) 国際化に対応できる周産期母子の専門家としての能力を養う。			
① 日本の国際化と外国人母子やその家族の特徴を理解する。			
② 外国人母子の母子保健上の問題や周産期管理上の問題を理解できる。			
③ 外国人母子のケア、特に管理者としての緊急事態や業務管理にも配慮することができる。			
④ 外国人母子のケア向上のため、外来や病棟での看護マニュアルを作成することができる。			
⑤ 外国人妊産婦の育児支援等、地域との連携を図り、施策にも参画することができる。			
3) CNS コース選択者のみ			
①外来、病棟にて外国人妊産婦を受け持ち、ケアの実践を踏まえ事例研究（例：異常分娩・緊急処置）を実施する。			
②外国人母子のケアシステムを改善するため病棟で勉強会を持つ。			
3. 教科書、参考書			
オリエンテーション時に配付予定			
武谷雄二他：助産管理、助産学講座 8、医学書院、2003.			
新道幸恵編：母性看護概論・母性保健／女性のライフサイクルと母性看護、メヂカルフレンド社、2003.			
WHO の 59 カ条お産のケア実践ガイド」. WHO〔編〕/戸田律子訳. 農山漁村文化協会, 1997			
4. 成績評価方法			
小論文（事例研究；5～10 枚程度）、出席状況、自主的学習態度等総合評価			
5. その他			
受講生のニーズにより内容を変更することがあります。			

授業科目		科目概要・形式	配当年次
看護教育論		2単位 30時間 必修	1年 前期
科目責任者	上泉和子		
担当者	上泉和子、藤本真記子、五十嵐 靖彦、小山敦代、舟島なをみ		
1. 科目のねらい・目標			
看護ケアの質を高めるために、人間に対する哲学的考察を基盤にして、看護専門職の基礎教育、看護の継続教育ならびにキャリア開発について学ぶ。			
2. 授業計画・内容			
〔五十嵐靖彦〕		(4コマ)	
1. 人間の内的世界や人間存在の意味、身体をめぐる人間の体験などの哲学的考察			
2. 人間に対する看護の本質、価値、方法論を追求する哲学的考察			
〔小山敦代〕		(4コマ)	
1. 看護専門職としての看護基礎教育・看護継続教育の変遷と動向			
2. 成人の教育（アンドラゴジー）			
3. 看護基礎教育における看護実践能力と卒業時到達目標			
4. 看護教育の内容と教育方法			
5. 看護教育に関する研究論文のクリティークと討議			
〔舟島なをみ〕		(2コマ)	
1. 看護教育学研究と研究成果に基づく教育の展開			
〔上泉和子〕		(4コマ)	
1. 看護における専門分化とその方向性			
2. 人的資源開発の理論			
3. 看護職者の生涯学習ニーズとその支援システム			
4. 看護職への教育的キャリア開発システム			
5. 看護継続教育（例：院内教育・研修会企画等）の考え方、プログラム立案、方法、評価 教育的働きかけ、教育環境作り等含む			
6. 新人看護職員研修			
3. 参考書			
・ 杉森みど里・舟島なをみ著：看護教育学、第4版、医学書院、2004.			
・ パトリシアベナー・ジュディスルーベル著、難波卓志訳：現象学的人間論と看護、医学書院、1999、			
・ サラT. フライ著、片田典子・山本あい子訳：看護実践の倫理、日本看護協会出版会、1998.			
・ 井部俊子・中西睦子監修：看護における人的資源活用論、日本看護協会出版会、2004.			
・ エドガーH・シャイン著、二村敏子訳：キャリア・ダイナミックス、白桃書房、1994.			
・ 小島恭子・野地金子編著：専門職としてのナースを育てる看護継続教育、医歯薬出版、2005.			
4. 成績評価方法			
出席 プレゼンテーション、レポート、 授業への主体的参加度			
5. その他			

授業科目 看護理論特論		科目概要・形式 2単位 30時間 選択	配当年次 1年 前期
科目責任者	大関信子		
担 当 者	大関信子、大井けい子、細川満子、鳴井ひろみ、角濱春美、新担当者		
1. 科目のねらい・目標 専門的看護実践の根幹となる看護の概念枠組みを理論的に構築するため、あるいは既存の看護理論・看護モデルを看護実践・看護教育および看護研究のうえに活用するため、①看護理論の構造、②代表的な看護理論の理解、③ 看護実践への理論の活用などの内容について学ぶ。			
2. 授業計画・内容 下記の担当者により代表的な看護理論、看護モデルおよび中範囲理論を取り上げ、全体として看護実践に関連のある理論の構造や看護実践への活用などを学ぶ（オムニバス形式）。			
第1-2回	〔大関信子〕	オリエンテーション・理論とは何か レイニンガーの文化ケア論	
第3-4回	〔角濱春美〕	理論生成の一手法としての概念分析	
第5-6回	〔大井けい子〕	コンフォート理論（中範囲理論）の基本的概念を理解し、看護実践への適応と評価 K. Y. コルカバ	
第7-8回	〔新担当者〕		
第9-10回	〔新担当者〕		
第11-12回	〔細川満子〕	オルム看護論	
第13-14回	〔鳴井ひろみ〕	危機理論	
第15回	〔大関信子〕	コースレビュー・論文の書き方	
3. 教科書、参考書 教科書は特に指定しない。参考書として上記理論家の著書やその理論に関する評論をあらかじめ読んでおくこと。			
4. 成績評価方法 自分の興味のある看護理論あるいは看護モデルについて調べ、その一つについて著者紹介と要旨ならびに自分で行った評論をレポートする。成績評価は出席状況、ディスカッションの内容等、ならびにこのレポートにより行う。			
5. その他			

授業科目 看護英文講読		科目概要・形式 2 単位 30 時間	配当年次 1 年 後期
科目責任者	大関信子		
担 当 者	大関信子・木村恵美子・川内規会		
1. 科目のねらい・目標 看護学における研究者・臨床家として必要な基礎的英語力を習得する方法を学ぶことを目的とする。医療や看護系英語論文の文献検索方法、文献の読み方、引用や結果の使い方を習得する。また、英文抄録を書ける基礎的能力を養い、国際ジャーナルの投稿方法を理解することを目標とする。			
2. 授業計画・内容 【英語の基礎】 Foundations of English（川内） 【文献検索・クリティーク】 英語の文法基礎知識（木村） 看護英語・看護英語論文の基礎知識（木村） 英語文献検索方法（MeSH 検索も含む）、英文抄録の読み方（クリティーク）と情報の整理方法・活用方法（大関） 【論文の読み方・書き方：Publication Manual of the American Psychological Association: 以下 APA】 Content and Organization of a Manuscript（大関） APA Editorial Style（大関） Tables & Figures, Reference List（大関） 海外看護雑誌投稿方法（投稿プロセスと Web 画面上の操作）（大関） 査読結果の読み方と対応方法（大関） コースレビュー（大関）			
3. 教科書、参考書 ＜テキスト＞ American Psychological Association.(2005). Publication Manual of the American Psychological Association: WA:APA. ＜参考書＞ Oermann, M.H. (2002). Writing for Publication in Nursing. NY:Lippincott.			
4. 成績評価方法 テスト（60％）と出席状況、事前準備等自主的学習態度、ディスカッションの参加状態等総合判定			
5. その他 ・ 英語検定 2 級、TOEFL550 点程度の英語力を求めます。 ・ 入学が決まった段階で担当者までご連絡ください。コース開始前に ① 基礎英語力をつける学習方法を一緒に検討します。 ② 自分の研究テーマに関する英語文献を検索し、英語原著論文 3-5 本程度コピーし読み込んでおいてください。毎回、講義で使います。			

授業科目 障害科学特論		科目概要・形式 2単位 30時間 選択	配当年次 2年 前期
科目責任者	藤田 智香子		
担当者	山下 弘二, 岩月 宏泰, 藤田 智香子		
1. 科目のねらい・目標			
障害を科学的にとらえ, より効果的な介入(治療, 指導, 調整, 予防を含む)を展開するための障害の分析, 評価, 効果判定についての理論的背景と具体的な方法を学ぶ。			
2. 授業計画・内容			
第1回 障害科学総論(岩月)			
第2回 信頼性と妥当性(岩月)			
第3回 評価指標(効果判定)(山下)			
第4回 調査研究(藤田)			
第5回 臨床研究の実際①:中枢神経系の事例(藤田)			
第6回 臨床研究の実際②:運動器系の事例(岩月)			
第7回 臨床研究の実際③:呼吸循環代謝器系の事例(山下)			
第8回 研究計画検討①:文献的検討(藤田)			
第9回 研究計画検討②:目的・方法の検討(岩月・山下・藤田)			
第10回 //			
第11回 研究計画検討③:結果の分析方法(山下)			
第12回 プレゼンテーション・論文作成に向けて(藤田)			
第13回 総括(藤田)			
3. 教科書、参考書			
特に指定しない。必要な資料等はその都度配布。			
4. 成績評価方法			
講義の出席状況, 課題レポートなどによる総合評価。			
5. その他			
受講者が希望する討議内容を含みます。 主体的な学習を期待します。			

授業科目		科目概要・形式	配当年次
看護コンサルテーション		2単位 30時間 必修	2年次 前期
科目責任者	上泉 和子		
担 当 者	上泉 和子、パメラ・ミナリク (Pamera Minarik)		
1. 科目のねらい・目標			
看護分野におけるコンサルテーションの概念、実践モデル、コンサルタントの役割、およびコンサルティングのプロセスについて学ぶ。 また、専門看護師の行うコンサルテーションおよび管理的コンサルテーションの実践について学ぶ。 (1) To define consultation (2) To describe models of consultation which are used to guide various types of consultation (3) To discuss the roles used by consultation (4) To discuss phases of consultation (5) To discuss the advanced nursing practice consultation model and process development by Barron & White			
2. 授業計画・内容			
(オムニバス方式) 〔上泉和子〕 8コマ 組織コンサルテーションのあり方と方法 (1) コンサルテーションモデル (2) 組織コンサルテーション (3) 組織のコンサルティングプロセス (4) 組織分析とコンサルテーションの実際 (5) コンサルテーションへの文化的影響 〔パメラ・ミナリク〕 6コマ APN、専門看護師等のコンサルテーションのあり方と方法 (1) Consultation models and roles (2) Consultation phases and process (3) Advanced nursing practice consultation models and process development by Barron & White			
3. 教科書・参考書			
・Lippitt,G.L.,& Lippitt,R.,(1986):The Consulting Process in Action 2nd.Ed. ・エドガー・H/シャイン著、稲葉元吉他訳 (1998) : 新しい人間管理と問題解決、プロセスコンサルテーションが組織を変える、産業大学出版部. ・Susan L. Norwood,(2003):Nursing Consultation –A Framework for Working with Communities.2nd.Ed.Prentice Hall. ・その他参考文献一覧は別途配布する			
4. 成績評価方法			
レポート			
5. その他			

授業科目 専門看護師論 CNS Role Development		科目概要・形式 2単位 30時間 必修	配当年次 2年 前期
科目責任者	パメラ・ミナリク (Pamela Minaric)		
担当者	木村恵美子、パメラ・ミナリク (Pamela Minaric)		
1. 科目のねらい・目標 わが国ならびに各国の専門看護師の役割と制度について学ぶ。また、実習におけるCNSとしての実践についてスーパーヴィジョンを通して専門看護師の役割の理解を深める。 (1) To describe the history and evolution of the CNS role. (2) To analyze definitions of the CNS role and apply analysis to the development of a draft CNS job description. (3) To apply the model of development to professional development as a CNS.			
2. 授業計画・内容 (1) Introduction ・ CNS Role: History, Evolution and Future (2) Definitions of CNS and Advanced Nursing Practice (3) Process of Role Development ・ Novice to Expert Skill Acquisition Model ・ Oda's 3 Phase Role Development Process in Nursing Specialization ・ Role Transitions ・ Strategy for Role Development (4) Supervision of Clinical Practice as a CNS			
3. 教科書・参考書 <Reading Assignment> ・ Hamric,A.B., Spross,J.A. & Hanson,C.M. (2000). <u>Advanced nursing practice: An integrative approach (2nd edition)</u> Chapter 1,3,5. Philadelphia:W.B.Saunders. ・ Sparacino, P.S.A., Cooper, D. & Minaric, P.A (1990). <u>The clinical nurse specialist: Implementation and impact.</u> Chapter 3 (p.58-68),12 Norwalk, C.T. : Appleton & Lange. ・ その他参考文献一覧は別途配布する。			
4. 成績評価方法 レポート			
5. その他 2年次前期の開講科目であるが、1年次前期に専門看護師論の概論に関する授業を行い、2年次前期に臨床実習をもとにしながら CNS としての実践活動についてスーパーヴィジョンを行う。			

授業科目 ヘルスプロモーション特論		科目概要・形式 2単位 30時間 必修	配当年次 1年 後期
科目責任者	吉池 信男		
担 当 者	吉池 信男、千葉敦子、反町 吉秀		
1. 科目のねらい・目標 さまざまなコミュニティの中で、人々の QOL や健康上の課題解決やニーズに合致した活動を、科学的根拠を踏まえて計画・実施するために必要な基本的な考え方、知識、並びにスキルの修得を目指す。特に、コミュニティにおけるエンパワーメントという視点から、保健医療福祉の専門家に求められる能力の開発につながる授業を行う。			
2. 授業計画・内容 吉池信男 ○ソーシャルマーケティングの活用と展開 ○社会経済的指標と健康との関わり ○「エビデンス」と「実践活動」との関わり 千葉 敦子 ○日本における地域保健活動からヘルスプロモーションへの変遷 反町吉秀 ○世界的にみた地域保健活動の最近の動向 ○地域保健活動と保健所 ○地域保健活動と住民参画 ○セーフティ・プロモーションの理論と実践			
3. 教科書、参考書 (参考書) ・ ローレンス・W. グリーン 著, 神馬 征峰 訳; 実践ヘルスプロモーション—PRECEDE - PROCEED モデルによる企画と評価、医学書院, 2005 ・ フィリップコトラー著; 社会が変わるマーケティング, 英治出版, 2007 ・ イチロー カワチ著, 西 信雄他 訳; 不平等が健康を損なう. 日本評論社, 2004 ・ 米国立がん研究所 編、中山健夫監訳; ヘルスコミュニケーション実践ガイド、日本評論社, 2008 他適宜お知らせします。			
4. 成績評価方法 出席状況およびレポートを総合して評価する。			
5. その他			

授業科目		科目概要・形式	配当年次
生活支援福祉学特論		2単位 30時間 必修	1年 後期
科目責任者	出雲 祐二		
担当者	出雲 祐二、大和田 猛、大山 博史、渡邊 洋一		
1. 科目のねらい・目標			
[出雲 祐二・大和田 猛] 近年の高齢者、とりわけ認知症高齢者ケアのあり方やレジデンシャルソーシャルワーカーや地域包括支援センターのソーシャルワーカーが対応する高齢者虐待防止の現実的課題を検討する。方法としては、文献や資料を中心に理念と実態の乖離を考究する。			
[大山 博史] 医療・保健・福祉の連携と協働について検討するとともに、メンタルヘルスの問題の生活問題についての包括的な課題を検討する。			
[渡邊 洋一] 地域高齢者などの医療・保健・福祉の連携と協働について検討するとともに、コミュニティケアの視点から高齢者問題・障害者問題の生活問題についての包括的な課題を検討する。			
2. 授業計画・内容			
[出雲 祐二・大和田 猛] 1～5回：認知症高齢者ケアのあり方やレジデンシャルソーシャルワーカー、地域包括支援センターのソーシャルワーカーについての基礎的文献の講読 6回：高齢者虐待防止に関する事例の検討 7回：高齢者の虐待防止をめぐる課題の討論 8～10回：高齢者のめぐる課題の討論			
[大山 博史] 11～12回：精神保健をめぐる課題の討論			
[渡邊 洋一] 13回：コミュニティケア理論に関する先行研究を考察する。 14回：コミュニティケアに関する実証的・数量的な解析をする。 15回：コミュニティケア理論の展望について考察をする。			
3. 教科書、参考書			
特に指定しない。必要に応じて講義の中で紹介する。			
4. 成績評価方法			
講義の参加状況、報告、討議などによって総合的に評価する。			
5. その他			

授業科目		科目概要・形式	配当年次
ソーシャルワーク特論Ⅰ		2単位 30時間	1年 前期
科目責任者	出雲 祐二		
担当者	出雲 祐二、大和田 猛		
1. 科目のねらい・目標			
社会福祉における方法論であるソーシャルワークの内容や理論について、原理的に知識を深め、その動向も理解させる。			
2. 授業計画・内容			
1. ソーシャルワークの歴史			
2. 社会福祉実践としてのソーシャルワークの内容			
3. 生活保護とソーシャルワーク			
4. 高齢者福祉とソーシャルワーク			
5. 児童福祉とソーシャルワーク			
6. 障害者福祉とソーシャルワーク			
7. 地域福祉とソーシャルワーク			
8. 医療福祉とソーシャルワーク			
9. 更生保護とソーシャルワーク			
10. ソーシャルワークの構造と視点			
11. ソーシャルワークの機能と役割			
12. 在宅福祉サービスとフィールドソーシャルワーク			
13. 施設福祉とレジデンシャルソーシャルワーク			
14. ソーシャルワークと関連領域			
15. ソーシャルワークと保健医療の連携			
3. 教科書、参考書			
講義が開始された後、担当教員から紹介、指示する。			
4. 成績評価方法			
出席状況やプレゼンテーション、レポート提出など総合的に評価する。			
5. その他			
熱意を持って受講すること。			

授業科目 ソーシャルワーク特論Ⅱ		科目概要・形式 2単位 30時間	配当年次 1年 後期
科目責任者	渡邊 洋一		
担当者	渡邊 洋一		
1. 科目のねらい・目標 社会福祉の方法は、ソーシャルワークとして対人福祉サービスを総合的に支援することを基本とする考え方が基本にある。今日的には、ソーシャルワークにおいて包括的な地域ケアのシステムを構築することが求められている。 本講義では、特に、社会福祉基礎構造改革や社会保障と税の一体改革の動向を踏まえて、地域福祉型のソーシャルワークについて論じる。あわせて、英国のソーシャルワークについて検討をする。			
2. 授業計画・内容 1. ソーシャルワークの歴史的発展 2. ソーシャルワークの歴史的発展の2 3. ソーシャルワークの理論と方法 4. ソーシャルワークの理論と方法の2 5. ソーシャルワークの理論と方法の3 6. コミュニティ・ソーシャルワークについて 7. コミュニティ・ソーシャルワークについての2 8. 英国のソーシャルワークとの比較研究 9. 英国のソーシャルワークとの比較研究の2 10. ソーシャル・インクルージョン政策について 11. その他			
3. 教科書、参考書 教科書 渡邊洋一著「コミュニティケアと社会福祉の展望」相川書房 参考書 渡邊洋一著「コミュニティケア研究」相川書房			
4. 成績評価方法 レポートなど総合的に評価する。			
5. その他 渡邊洋一著「コミュニティケア研究」相川書房は絶版のため渡邊に相談すること。			

授業科目 社会福祉研究方法特論		科目概要・形式 2単位 30時間	配当年次 1年 前期
科目責任者	渡邊洋一		
担 当 者	出雲祐二・渡邊洋一・大和田猛		
1. 科目のねらい・目標 社会福祉研究における方法論について、基礎的、原理的に知識を深め、修士研究論文を作成する方法にも活用できるよう理解させる。			
2. 授業計画・内容 1, 社会福祉学研究方法の基礎的理解（大和田猛） 2, 社会福祉研究をめぐる量的調査の基礎（1）（大和田猛） 3, 社会福祉研究をめぐる量的調査の基礎（2）（大和田猛） 4, 社会福祉研究をめぐる質的調査の基礎（1）（大和田猛） 5, 社会福祉研究をめぐる質的調査の基礎（2）（大和田猛） 6, 社会福祉研究をめぐる質的、量的文献レビューと方法（1）（出雲祐二） 7, 社会福祉研究をめぐる質的、量的文献レビューと方法（2）（出雲祐二） 8, 社会福祉研究をめぐる質的、量的文献レビューと方法（3）（出雲祐二） 9, 社会福祉研究をめぐる質的、量的文献レビューと方法（4）（出雲祐二） 10, 社会福祉研究をめぐる質的、量的文献レビューと方法（5）（出雲祐二） 11, 社会福祉研究をめぐる方法論の現状と課題（1）（渡邊洋一） 12, 社会福祉研究をめぐる方法論の現状と課題（2）（渡邊洋一） 13, 社会福祉研究をめぐる方法論の現状と課題（3）（渡邊洋一） 14, 社会福祉研究をめぐる方法論の現状と課題（4）（渡邊洋一） 15, 社会福祉研究をめぐる方法論の現状と課題（5）（渡邊洋一）			
3. 教科書、参考書 講義が開始された後、担当教員から紹介、指示する			
4. 成績評価方法 出席状況やプレゼンテーション、レポート提出など総合的に評価する。			
5. その他 熱意を持って受講すること			

授業科目		科目概要・形式	配当年次
運動生理学特論Ⅰ		2単位 30時間	1年前期
科目責任者	岩月 宏泰		
担当者	岩月 宏泰, 鈴木 孝夫, 尾崎 勇, 神成 一哉		
1. 科目のねらい・目標			
ヒトの身体運動メカニズムを解剖学, 生理学, 神経学, 運動学などの学問領域から解析するための基礎知識と手法について学習する。			
2. 授業計画・内容			
(岩月 宏泰)			
1.研究の意義と過程			
2.研究の目的と手法			
3.研究計画に必要な事項			
4.基本統計の概念と手法の選択			
5.臨床研究方法の意義と種類			
6.臨床研究の実際 (症例研究)			
7.臨床研究の実際 (特別な機器を用いない研究)			
8.基礎医学的研究の特徴と進め方			
9.社会調査の種類と進め方			
(鈴木 孝夫)			
1.形態形成における正常と異常, 系統解剖による解析法			
2.形態形成における正常と異常, 実験奇形による解析法			
(尾崎 勇)			
1. 臨床電気生理学的研究の基礎			
2. 臨床電気生理学的研究の最近の動向			
(神成 一哉)			
1. 運動に関わる薬物			
2. パーキンソン病モデル動物を用いた研究			
3. 教科書, 参考書			
特に指定しない。必要に応じて授業の中で紹介する。			
4. 成績評価方法			
出席状況, プレゼンテーションなどにより総合的に評価する。			
5. その他			
神経系全般の機能に関しては, 「神経科学特論」(2年前期)の履修を勧める。			

授業科目		科目概要・形式	配当年次
運動生理学特論 II		2単位 30時間 必修	1年 後期
科目責任者	尾崎 勇		
担 当 者	尾崎 勇、神成一哉、鈴木孝夫、岩月宏泰		
1. 科目のねらい・目標			
安静時および運動時の生体機能（呼吸循環器系、筋骨格系、神経系の変化）に関する生理学的知識を深める。			
2. 授業計画・内容			
尾崎 勇			
1) 安静時および運動時の生体機能に関する知識を深めるために、専門書を詳読する。			
2) 脳波、脳磁図、心電図、筋電図を理解するために、必要な生理学と物理学の知識を学ぶ。			
3) 運動を含めた脳機能障害時に起こりうる脳の可塑性について、文献を通じて理解する。			
4) 専門書で得た知識を確認するために、ヒトあるいは動物を対象とした実験を計画する。計画に際して、ヒトを実験対象とした時の、インフォームドコンセントのあり方について修得する。			
神成一哉			
1) 脳神経系を構成する物質（神経生化学）に関する知識を深める。			
2) 脳神経系に作用する薬物（神経薬理学）に関する知識を深める。			
3) 運動機能障害をきたす代表的神経疾患（パーキンソン病など）に関する知識を深める。			
4) 実験動物の管理、疾患モデル動物、動物実験倫理の実際などについて学ぶ。			
鈴木孝夫			
1) 安静時と運動時の生体機能の変異を検証する動物実験モデルの作成プログラムを立案する。			
2) 安静時および運動時の生体機能について、細胞内小器官の電子顕微鏡レベルでの変異を文献的に理解する。			
岩月宏泰			
1) 高次脳機能障害の機能障害評価法について、文献を通じて理解する。			
2) 平衡機能障害に対する理学療法治療理論について、文献を通じて理解する。			
3) 運動を再獲得させるための学習理論について、文献を通じて理解する。			
3. 教科書、参考書			
Review of Medical Physiology (McGraw Hill)			
Exercise and the Heart (Fronelicher/Myers)			
Essential of Exercise Physiology (Lippincott Williams & Wilkins)			
スポーツ医学（朝倉書店）			
スポーツ医科学ハンドブック（医学書院）			
脳の可塑性～可塑性のメカニズムと神経系の障害（Aage R.Moller 著，中川雅文，尾崎 勇 監訳 医歯薬出版 ISBN978-4-263-21337-7, 2009）			
ガイドン 生理学（原書第11版，御手洗玄洋 総監訳 エルゼビア・ジャパン ISBN：978-4-86034-724-6, 2010）			
標準生理学 第8版（医学書院 平成25年4月刊行予定）			
Principles of Neural Science 5 th edition (Kandel, Schwarz, Jessel, Siegelbaum, Hudspeth 著，McGraw-Hill Companies, ISBN-13: 978-0071390118, 2012)			
神経科学～脳の探求～（ベアー，コノーズ，パラディーソ著，加藤宏司ほか訳 西村書店 ISBN-10: 4890133569, 2007）			
クーパー・ブルーム・ロス 神経薬理学 生化学からのアプローチ（樋口宗史編，メディカル・サイエンス・インターナショナル, ISBN-10: 4895923932, 2005）			
4. 成績評価方法			
形成評価は数回にわたる面接による。			
総合評価はレポートおよび面接による。			
5. その他			

授業科目 機能障害・回復学特論Ⅰ		科目概要・形式 2単位 30時間	配当年次 1年 前期
科目責任者	山下 弘二		
担 当 者	渡部 一郎, 山下 弘二, 川口 徹, 藤田 智香子		
1. 科目のねらい・目標 リハビリテーションおよび理学療法における研究法について正しく理解するとともに、実際の論文抄読を通じて具体的に学ぶ。さらに、機能回復の回復過程やそれを促すために開発されたリハビリテーションの up to date なものに理解を深める。			
2. 授業計画・内容 山下 弘二 1. 研究の動機・目標, 研究テーマ決定, 予測・仮説 2. 予備的な検討, 研究・実験計画, 予測を実証する現実的な方法 3. データ収集・整理・統計解析と仮説 4. データの解釈と検討 5. 学会発表と追加実験・再検証 6. 論文投稿 7. 英文抄読 渡部 一郎 1. リハビリテーション・福祉工学の研究方法論 2. 物理療法の研究方法論 川口 徹 1. 維持期リハビリテーションにおける理学療法の基礎1 2. 維持期リハビリテーションにおける理学療法の基礎2 藤田 智香子 1. リハビリテーションにおける調査研究の基礎 2. リハビリテーションにおける質的研究の基礎			
3. 教科書、参考書 特に指定しない。必要な資料等はその都度配布。			
4. 成績評価方法 出席状況, 課題に対する発表内容による総合評価。			
5. その他			

授業科目 機能障害・回復学特論Ⅱ		科目概要・形式 2単位 30時間	配当年次 1年 後期
科目責任者	渡部 一郎		
担 当 者	渡部 一郎, 山下 弘二, 川口 徹, 藤田 智香子		
1. 科目のねらい・目標			
機能障害と能力障害の因果関係を考察するために、生物学及び生体力学の両面からアプローチするための最新知識について学習する。また、機能回復の回復過程やそれを促すために開発された理学療法介入の科学的根拠についても理解を深める。			
2. 授業計画・内容			
渡部 一郎			
1. リハビリテーション医学の概要			
2. 福祉工学の概要			
3. 物理療法のエビデンス			
4. 疼痛性疾患の病態			
山下 弘二			
1. 内部障害に対するリハビリテーション			
2. 内部障害の理学療法評価			
3. 内部障害の理学療法			
4. サルコペニアと咳嗽能力			
川口 徹			
1. 維持期リハビリテーションにおける理学療法評価			
2. 維持期リハビリテーションにおける理学療法展開			
3. 維持期リハビリテーションにおける理学療法アプローチ			
4. 地域理学療法戦略			
藤田 智香子			
1. 生活環境の評価			
2. 生活環境整備の視点			
3. 福祉用具の適応			
4. 症例検討			
3. 教科書、参考書			
特に指定しない。必要な資料等はその都度配布。			
4. 成績評価方法			
出席状況, 課題に対する発表内容による総合評価。			
5. その他			

授業科目		科目概要・形式	配当年次
看護システム開発論		2単位 30時間 必修	1年 後期
科目責任者	鄭 佳紅		
担当者	リボウィッツよし子、鄭 佳紅		
1. 科目のねらい・目標			
日米のヘルスケアシステムの歴史、文化、社会的背景から、看護の機能を効果的に発揮できるシステム開発方法を国内外の文献購読、および関連理論や最近の研究動向をもとに学ぶ。			
2. 授業計画・内容			
[リボウィッツ] (4 コマ)			
1) ヘルスケアシステムの変遷：ライノフのアメリカにおける看護の変遷を討議し、日本の看護の方向性を分析・考察する。			
1. 官僚的ヘルスケアシステム (1945-1960)			
2. ヘルスケアシステムの再構築 (1960-1980)			
3. ヘルスケアシステムの再配置 (1980-現在)			
[鄭] (10 コマ)			
1) 現行の看護提供システム等について分析・検討し、今後のシステムのあり方について討議する。			
ex. ユニットレベル (病棟および外来) の看護提供方式, 地域連携のための看護システム, 他			
2) 日本におけるヘルスケアシステムなどについて調べ、新しいシステム開発を試み、発表・討議する。			
ex. 急性期ケア, 長期ケア施設, 在宅, 他			
3. 教科書			
Lynaugh, Joan E and Barbara L. Brush. <u>American Nursing from Hospitals to Health Systems</u> Blackwell: Cambridge, Massachusetts, 1996 (コピーをこちらで用意します)			
4. 成績評価方法			
・ 各プレゼンテーション 50%			
・ 最終レポート「これからの看護システム」 50%			
5. その他			
・ 一回目の講義時にコースの概略、課題学習等についてオリエンテーションを行います。			
・ 内容は、参加者背景や参加者の要望により変更することがあります。			

授業科目		科目概要・形式	履修年次
母性看護学特論		2単位 30 時間	1年 前期
科目責任者	大関 信子		
担 当 者	大関信子 ・ 中村由美子		
1. 科目のねらい・目標			
ウィメンズヘルスという枠組みの中で、リプロダクティブヘルス・ライツや自己決定の概念を基幹として、ライフサイクル毎における女性の特徴を理解し、健康問題の診断や看護援助方法を学ぶ。また、健康教育や相談を含めたヘルスプロモーション、性や性機能に関するケアシステムや倫理的問題についても文献講読や事例を通して学ぶ。			
2. 授業計画・内容			
【大関信子】（ウィメンズヘルス：成熟期・更年期・老年期）			
1. ウィメンズヘルスとは何か			
2. Women's Sexuality			
3. ライフサイクルとリプロダクティブヘルス・ライツ			
4. リプロダクティブヘルスとケア			
5. 成熟期・更年期・老年期女性の身体的、心理的、社会的特徴とセクシャリティの特徴			
6. 成熟期・更年期・老年期のリプロダクティブヘルス・ライツと健康課題			
7. 成熟期・更年期・老年期のケアシステム			
8. 成熟期・更年期・老年期と看護倫理			
9. 対象理解（事例1）：更年期障害を抱えた場合のアセスメントとケアの実際			
10. 対象理解（事例2）：セクシャリティの問題を抱えた場合のアセスメントとケアの実際 （学生の人数や希望により内容を多少変更することがあります）			
【中村由美子】（思春期）			
1. ヘルスプロモーションとは何か			
2. 思春期におけるヘルスプロモーション			
3. 思春期の特性と健康課題			
4. 同上			
3. 教科書、参考書			
【大関 信子】日本看護協会出版会「看護実践の倫理」その他、随時紹介する。			
【中村由美子】			
4. 成績評価方法			
【大関信子】事例報告（5枚程度）、出席状況、自主的学習態度等 総合判定			
【中村由美子】思春期における健康課題/問題を一つ取り上げ、A4用紙5枚以内で説明すること			
5. その他			

授業科目		科目概要・形式	履修年次
周産母子看護学特論Ⅰ		2単位 30 時間	1年 後期
科目責任者	大井けい子		
担 当 者	近藤好枝、佐藤秀平、室月淳、大井けい子		
科目のねらい・目標			
周産期にある母児の健康問題をアセスメントし、看護実践能力の基盤となる専門知識を習得する。正常な経過をたどる対象にはセルフケアの支援をおこない、異常が発生した場合には緊急対応や看護援助について学び、母子ケアの質を高められるよう学ぶ。			
2. 授業計画・内容			
〔近藤好枝 非常勤講師（慶応大学看護医療学部 教授）〕		(6 コマ)	
1. エビデンスに基づく新生児看護			
2. 低出生体重児の看護の基本理念			
3. フジカルアセスメント			
4. フィジカルケア			
5. デベロップメンタルケア			
6. ファミリーセンタードケア			
〔大井けい子 教授〕		(5 コマ)	
1. 妊産褥婦のアセスメントとプライマリーケア			
2. 正常経過からの逸脱や異常にある妊産褥婦のケア			
3. 周産期における母児にケアを提供する職種との連携・共同			
〔佐藤秀平 非常勤講師（県立中央病院 総合周産期母子医療センター長）〕			
1. 妊産褥婦の異常と救急処置		(2 コマ)	
〔室月淳 非常勤講師（東北大学大学部 産婦人科）〕		(1 コマ)	
1. 胎児・新生児の異常と救急処置			
3. 教科書、参考書			
〔近藤好枝教授〕 特に指定なし			
〔大井けい子教授〕 必要に応じ紹介する			
4. 成績評価方法			
出席と参加度（講義中のプレゼンテーションや質疑への積極性）、レポート評価			
5. その他			
ディスカッションができるよう、事前学習をして参加する			

授業科目		科目概要・形式	履修年次
ウィメンズヘルスⅠ		2単位 30 時間	1年 後期
科目責任者	大関 信子		
担 当 者	大関信子		
1. 科目のねらい・目標			
思春期・成熟期・更年期・老年期の女性特有の健康問題を理解し、Evidence-Based Medicine/Midwifery/Nursing (以下 EBM) の手法を取り入れ、アセスメントやケアの在り方を検討できる基礎的能力を養う。臨床において科学的根拠に基づき、ケアの質の向上に寄与できる能力を養う。			
2. 授業計画・内容			
【大関信子】			
1. ウィメンズヘルスの理論と概念			
2. 性差医学、女性医療の動向			
3. 女性を取り巻く環境と健康問題：女性と社会・政治・経済			
4. 女性を取り巻く環境と健康問題：女性とメンタルヘルス			
5. 女性の疫学統計			
6. Evidence-Based Medicine (EBM) とは何か；The Center for Evidence-Based Medicine in Oxford			
7. 同上			
8. 思春期女子の健康問題とケア（1つの疾患を選びEBMを用いアセスメントや支援方法を検討する）			
9. 同上			
10. 成熟期女性の健康問題とケア（1つの疾患を選びEBMを用いアセスメントや支援方法を検討する）			
11. 同上			
12. 老年期女性の健康問題とケア（1つの疾患を選びEBMを用いアセスメントや支援方法を検討する）			
13. 同上			
14. 事例検討（問題を抱える女性または医療スタッフの聞き取り調査を含む）			
15. 同上			
3. 教科書、参考書			
Heneghan, C. & Badenoch, D. (2006) Evidence-based Medicine Toolkit , Blackwell Publishing Ltd			
4. 成績評価方法			
事例報告（5枚程度）、出席状況、自主的学習態度等 総合判定			
5. その他			
毎回、外国の文献講読（英語）が入ります。			

授業科目		科目概要・形式	履修年次
国際看護学Ⅰ		2単位 30 時間	1年 前期
科目責任者	大関 信子		
担 当 者	大関信子		
1. 科目のねらい・目標			
＜グローバル化と健康問題＞ グローバル化とは何かを理解し、グローバルヘルスの観点から地球環境と健康問題について理解を深める、また、Evidence-based Medicine/Midwifery/Nursing の手法を用い、諸問題に的確に対応できる看護師・保健師・助産師としての基本的能力を養う。また、研究者としてグローバル化と健康問題について研究課題を分析し研究を遂行できる基本的能力を身につけることを目的とする。			
2. 授業計画・内容			
【大関信子】			
1. グローバリゼーションとは何か			
2. 同上			
3. グローバリゼーションと健康危機（感染症、地球環境問題、人口爆発、食料危機、資源の枯渇等）			
4. 同上			
5. グローバリゼーションと人の移動（戦争、貧困、移民と人権）			
6. 同上			
7. グローバリゼーションと国際支援			
8. 同上			
9. グローバリゼーションと看護			
11. 同上			
13-14. 自由課題（上記の問題を抱える人または医療スタッフの聞き取りを含む）			
15. まとめ			
3. 教科書、参考書			
随時紹介			
4. 成績評価方法			
レポート報告（5枚程度）、口頭試問、出席状況、自主的学習態度等 総合判定			
5. その他			
学生の準備状況（目的、計画、英語力）により海外研修を検討します。			